開導聖人を支えたご信者物語 第1回

200th Anniversary
佛立開導日扇聖人◎ご生誕200年慶讃

本年は佛立開導日扇聖人ご生誕二百年のご当年です。そこで本紙では、ご生誕二百年慶讃ご奉公の一環として、小中学生にも理解できるように「開導聖人から直接ご教導を受けられ、ご奉公に励まれたご信者方のお話」を掲載させていただきます。どうぞ、ご家族揃ってお読みください。

奥野利兵衛

奥野利兵衛さんは、開導聖人と同じ文化十四年（一八一七）の生まれで、生まれたところも同じ京都なんだ。利兵衛さんが本門佛立講（本門佛立宗）のご信者となったのは、安政四年（一八五七）の佛立講ができたばかりの頃で、教化親（佛立講の御題目のご信心を伝えてくれた人）は講元（佛立講のご信者さんの代表）の山田善五郎さんなんだよ。

教化親の山田善五郎さんお家での御講にお参りされ、開導聖人の御法門を聞かれた利兵衛さんは、「これまでいろいろなお寺にお参りをして、たくさんの仏様の教えを聞いてきたけれども、これほどありがたい仏様のお話を聞いたの初めてだ！」と、とても感激されたんだ。

それ以来、利兵衛さんは開導聖人の御法門を、一千回、二千回とたくさん聴聞（聞くこと）されるんだ。そして、御法門で教えられたことをすぐに実行（実際に行うこと）され、お教化（多くの人々に御題目のご信心をお勧めしご信者にすること）のご奉公に励まれたんだ。

御法門を良く聞き、教化に努めご有志と奉仕に励む奥野利兵衛さん

利兵衛さんは、お医者さんに診てもらうお金のない貧しい人や、お医者さんに見放された（もうダメだとあきらめられた）重病の人を、次から次にお教化されたんだ。そして、そんな人たちと一緒になって「南無妙法蓮華経」と御題目をお唱えし、多くの人々の病気を治すご利益をいただかせたんだよ。

とにかく利兵衛さんは、あちらこちらを歩きまわり、京都だけでなく大阪・奈良・兵庫にも御題目のご信者を増やしていったんだ。

大津・佛立寺（法華堂）境内の大灯籠　開導聖人ご自身のデザインによるもので高さ約5メートル、まん中に太い字で「常夜灯」と彫られている。この大灯籠の勧募のご奉公に奥野利兵衛さんも大活躍されたんだ。

また、利兵衛さんは、ご有志（お金や物を差し出すこと）や勤労奉仕（身体を使ってつくすこと）のご奉公にも、とても熱心に励まれたんだ。

ご有志や勤労奉仕のご奉公にも励まれる

奥野利兵衛さんの篆刻（てんこく／石などの印材に文字を彫ること。特に書画などに用いる印章）

大津法華堂（現大津佛立寺・佛立開導日扇聖人物語第十回・当紙平成二十七年十月号を見てね）を建てる時も、京都・大津・大阪のご信者方に勧募（ご有志をすすめ集めること）のご奉公を。また、今大路屋敷（開導聖人のお住まい）の建築にもご有志や勤労奉仕に努められ、大津法華堂境内の大灯籠を作る時も、勧募ご奉公に骨惜しみなく（苦労することを嫌がらないで）励まれたんだ。そんな利兵衛さんのご奉公を開導聖人はとても喜ばれたんだよ。

◆　◆　◆　◆　◆

明治十年（一八七七）三月十七日、奥野利兵衛さんはお亡くなりになるんだ。法号（亡くなった人が御導師や御講師からいただく名）は「信行堂広演日利居士」、六十一歳だったんだ。

利兵衛さんが亡くなった時の京都の佛立講のご信者は、大半（半分以上）がこの利兵衛さんのお教化を受けた人というから、本当に凄いご信者だったんだね。

奥野利兵衛さんは開導聖人に習われただけあり書にすぐれていた。「末法鏡明記」という本を見事な楷書で書かれ（写真上）、信行堂清喜謹書と署名されている（写真下）